

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：15401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24720163

研究課題名(和文)『金瓶梅』の服飾描写からみる中国近代小説の誕生と展開に関する研究

研究課題名(英文) A Study about birth and development of the Chinese modern novel : from the description of clothing and accessories in "Jin Ping Mei"

研究代表者

川島 優子 (KAWASHIMA, YUKO)

広島大学・文学研究科・准教授

研究者番号：30440879

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、『金瓶梅』における服飾描写に着目し、服飾描写が人間を描出するひとつの手段として用いられていることを明らかにすることで、『金瓶梅』のリアリズム、近代性を具体的に実証し、中国文学における近代小説の誕生、発展の過程を明らかにしようとするものである。人物と服飾との相関関係を細かくデータ化し、従来の作品や当時の資料とあわせて分析することによって、『金瓶梅』における服飾は、人物形象に奥行きを与え、ストーリーを深化させる手段として意識的に用いられていることを具体的に指摘した。こうした人間描写の手法は、『紅樓夢』をはじめとする後世の文学作品に大きな影響を与えたものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study aims at the description of clothing and accessories in "Jin Ping Mei", to make it clear that the description of clothing and its accessories is employed as one way to describe a character, and try to prove verism and modernism of "Jin Ping Mei", and to make it clear the birth of a modern novel and the process of the development in the Chinese literature. Data-ized a relation between a character and her clothing and accessories, I found out that clothing and accessories in "Jin Ping Mei" is employed as the means to give the depth to the character and story. I can think the technique of such description had a big influence on literary work in posterity such as "Hong Lou Meng".

研究分野：中国文学

キーワード：国際情報交換

1. 研究開始当初の背景

明の終わり(十七世紀)に誕生した長編の白話小説『金瓶梅』は、詳細な描写を最大の特徴とする。服飾、食事、インテリア、ゲームや贈り物、性行為やおしゃべり、あらゆるものがミクロな視点で描かれている。詳細であるがゆえに、従来こうした描写は、当時の文化、風俗を映し出す「資料」として注目される傾向にあった。しかしこうした詳細な描写そのものもつ意味はどこにあるのか、詳細な描写によって『金瓶梅』が描こうとしたものは何なのか、といった問題については深い議論もなされないまま現在に至っている。作品に登場する人物の外見、とくに服飾に関する描写も詳細を極めていたが、それらは単に当時の服飾文化を忠実に再現しているというだけでなく、個々の人物像と深い関連性を持っているものと考えられる。こうした複雑な人物描写の手法は、それ以前の作品には見られないものである。

2. 研究の目的

本研究は、『金瓶梅』における服飾描写(容姿などの外見描写を含む)に着目し、服飾描写が人間を描出するひとつの手段として用いられていることを明らかにすることで、『金瓶梅』のリアリズム、近代性を具体的に実証し、中国文学における近代小説の誕生、発展の過程を明らかにしようとするものである。『金瓶梅』が「リアリズム小説」だとは従来言われてきたことである。『金瓶梅』を以て近代小説の幕開けとする記述もまま見られる。しかし『金瓶梅』のリアリズムはどのような点に見られるのか(単に描写が詳しいということを以てリアリズムと言えるのか)、『金瓶梅』の近代性はどこにあるのか、具体的な考証はまだ不十分である。本研究では、詳細な服飾描写による人間の描出という視点からこうした問題にアプローチし、中国文学史(とりわけ小説史)における『金瓶梅』の位置づけを行う。

また、『金瓶梅』においてなぜこれほどまでに描写が詳細なのか、なぜ人物が登場するたびにその服装が描かれるのかという問題に関しては、『金瓶梅』が演劇の影響を受けているためではないかと推測している。演劇では人物の描き分けが視覚的に行われるため、服飾と人物像とが密接に関係していると考えられるからである。服飾描写を通して『金瓶梅』と演劇との関係を指摘することができれば、『金瓶梅』の成立そのものに係わる問題にも発展する可能性がある。

3. 研究の方法

本研究では『金瓶梅』の外見描写、特に服飾描写に焦点を絞り、人物描写との関連性を具体的に明らかにする。考察は、

その服飾が実際にどのようなものであったか(当時の服飾資料を調査)

その服飾はどのような「イメージ」を持つものであったか(過去、および同時代の文学作品を調査)

という、大きく二つの方向から行う。とりわけ「色」「デザイン」に関しては、過去の文学作品に見られるイメージ、型、典故を踏まえている可能性が高いため、当時の資料だけでなく、中国文学全般に調査の対象を広げ、それらを『金瓶梅』がどのように取り込んでいるかを明らかにする。また、演劇からの影響についても調査を行う。演劇では人物の描き分けが視覚的に行われるため、服飾と人物像とが密接に関係しているものと考えられるからである。

4. 研究成果

(1) 服飾描写と人物描写との関連性

人物と服飾との相関関係を細かくデータ化し、分析することによって、『金瓶梅』における服飾は、単なる記号にとどまらず、人物形象に奥行きを与え、ストーリーを深化させる手段として意識的に用いられていることを具体的に指摘した。

たとえば、正妻・呉月娘は、従来「良妻賢

母」と評されてきたが、彼女の服飾を分析したところ、紅い生地、これみよがしな派手なデザイン（麒麟、鳳凰）などを好んで身につけていること、また周囲の女性たちが、彼女に気を遣って自らの装いを選択していることなどが具体的に窺え、従来の見方とは異なる呉月娘の姿が浮かび上がってきた。

こうした人間描写の手法は、『紅樓夢』をはじめとする後世の文学作品に大きな影響を与えたものと考えられる。

(2) 『金瓶梅詞話』のテキストについて

本研究のテキストとして使用している『金瓶梅詞話』（『金瓶梅』最古のテキスト）には、三つの版本（台北故宮博物院所蔵本、徳山毛利家所蔵本、日光山輪王寺所蔵本）が現存している。初年度には、江戸時代に日本へ伝来した徳山毛利家所蔵本の調査を行った。また、次年度には、台北故宮博物院所蔵本の調査を行った。これらの版本と、我々が日常的に利用している影印本との比較を行った結果、影印本に数々の問題が存在していることが明らかとなった。なお、両版本の詳細な比較は今後の課題である。

(3) 『金瓶梅』の日本での受容について

服飾描写を含む詳細な描写が、江戸時代の日本人にとって、どのような意味を持っていたのかについて考察を行った。テキストとして用いたのは鹿児島大学附属図書館玉里文庫に蔵される江戸時代に作られた『金瓶梅』の訓訳本（抄本）である。考察の結果、『金瓶梅』の詳細な描写は、江戸時代の日本人にとって、極めて「資料」的価値の高いものとして受け入れられていたことが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

川島優子「明代の白話小説と『夷堅志』」（『アジア遊学 181 南宋の隠れたベストセラー夷堅志の世界』、査読有、2015、pp199～213）

川島優子「台北故宮博物院蔵『金瓶梅詞話』の影印本をめぐって」（『中国学研究論集』33、査読無、2014、pp178～195）

川島優子「異類の女たち 狐女を中心として」（『中国中世文学研究』63・64 合併号、査読有、2014、pp183～pp196）

川島優子「江戸時代《金瓶梅》伝播考略」（『文学新論』18、査読有、2013、pp1～19）

川島優子「关于高阶正巽《金瓶梅》训注本考一 兼论江戸时代《金瓶梅》之接受」（『中国文学研究』22、査読有、2013、pp196～217）

川島優子「江戸時代における「資料」としての『金瓶梅』 高階正巽の読みを通して」（『東方学』125、査読有、2013、pp107～122）

〔学会発表〕（計8件）

川島優子「『金瓶梅』の服飾描写」（中国中世文学学会、2014、11、8、広島大学）

川島優子「日本にやってきた中国の小説たち 『水滸伝』『金瓶梅』のちから」（環日本海講演会、2014、2、22、鳥取県立図書館）

川島優子「江戸時代における『金瓶梅』の受容」（山口中国学会、2013、12、21、山口大学）

川島優子「故宮博物院蔵『金瓶梅詞話』の影印本をめぐって」（2013年度「海域交流をキーワードとした中国通俗文芸の学際的研究」第四回「海域交流と中国古典小説」研究会、2013、12、7、高知県立大学）

川島優子「江戸時代《金瓶梅》伝播考略」（2013 明代文学与思想国際学術検討会、2013、11、8-9、台湾・南華大学）

川島優子「金瓶梅の服飾描写」（2013年度

「海域交流をキーワードとした中国通俗文芸の学際的研究」第三回「海域交流と中国古典小説」研究会，2013,9,6,台北凱撒大飯店)

川島優子「江戸時代被当作“資料”究読的《金瓶梅》 従高階正巽所施訓談起」(明代文学学会第九届年会暨 2013 年明代文学国際学術検討会，2013,8,25-26，中国・復旦大学)

川島優子「高階正巽と『金瓶梅』 鹿児島大学付属図書館玉里文庫蔵「金瓶梅」を中心として」(第 58 回中国四国地区中国学会大会，2012,6,2,広島大学)

[図書](計 2 件)

『富永一登先生退休記念論集』(仮)(川島優子分担執筆「『金瓶梅』の服飾描写」,2015 刊行予定,研文出版，pp278～300，総頁数 480)

中村春作主編『東アジア海域に漕ぎだす 5 訓読から見なおす東アジア』(川島優子分担執筆「白話小説はどうよまれたか」,2014，東京大学出版社，pp178～192，総頁数 317)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川島 優子 (KAWASHIMA YUKO)

研究者番号：30440879